

第3回 播磨町長期総合計画審議会

開催日時	令和7年8月22日（金）午前10時00分～11時30分
開催場所	播磨町役場 3階 BC会議室
出席者	【長期総合計画審議会委員】 田端 和彦（兵庫大学） 足立 泰美（甲南大学） 寶木 和恵（播磨町商工会） 小崎 碧華（はまなす） 宮尾 尚子（播磨町社会福祉協議会） 松下 嘉城（播磨町自治会連合会） 塚崎 早苗（NPO 法人スポーツクラブ21 はりま） 中村 まさみ（播磨町連合婦人会） 津村 道彦（（公社）加古郡広域シルバー人材センター） 尾崎 直美（人権擁護委員） 長谷川 美智子（社会教育委員） 米津 実千代（教育委員） 岡部 祐希（播磨町ふるさとPR大使） 長谷川 有里（住民委員） 【町】 平野 祐次（副町長） 松本 弘毅（企画総務部長） 筒井 和秀（企画課長） 大崎 恵美子（企画課課長補佐） 丸井 直樹（企画課主査） 佐伯 亮太（まちづくりアドバイザー） 【ジャパン総研】 片山 涼 内藤 望
欠席者	なし
議題	1. 開会 2. 議事 （1）第5次播磨町総合計画後期基本計画素案について （2）長期的人口目標について （3）パブリックコメントの実施について 3. 閉会

配布資料	・ 次第 ・ 資料 1 - 1 委員名簿 ・ 資料 1 - 2 配席図 ・ 資料 2 策定スケジュール ・ 資料 3 第 5 次播磨町総合計画後期基本計画素案 ・ 資料 4 長期的人口目標
------	---

1.開会

- ・事務局より資料の確認
- ・7月に実施したワークショップの実施概要を報告

【会長】

本日の議事録の署名を、宮尾委員と長谷川有里委員にお願いしたい。

2. 議事

(1) 第5次播磨町総合計画後期基本計画素案について

(資料3について町から説明)

【副会長】

ワークショップについて、若い世代やシニアを含めたいろんな世代、職員にも参加いただいたとのことだが、このワークショップの成果は計画のどの箇所に反映されているか。

また、今回転入者アンケートの調査結果を追加いただいた。結果をみると、「自身の仕事の都合」で転入してきている人が多くなっている。転入者の転入理由では「通勤・通学に便利」が多くなっている一方で、満足度においては、「公共交通の維持・確保」が一番低くなっており、齟齬がある。読み解いていけば、転入者の7割が単身で、通勤通学での利用が多いというのが実態ではないか。

【町】

ワークショップで出た意見は後期基本計画のそれぞれの分野の課題や目標に反映している。例えば36ページの子育て支援について、子どもだけではなく保護者の孤立対策について今回得た意見を反映している。その他にもそれぞれの施策に取り入れている。

また、公共交通について、アクセスの良さが転入の際の判断材料の一因にされていると考える。一方で、満足度としては低いが、これはどの市町でも同じような結果になっている傾向が強い。

【副会長】

公共交通の満足度はご指摘のようにほかの市町でも低い。10ページの社会動態の推移のところ転入・転出者の数値を記載いただいております、転入超過分がわかる。これはおそらく単身者の移動によるもので、その要因に公共交通が関連しているのではないかと。例えばメリットとしては姫路方面や神戸方面へのアクセスの良さなどが考えられる。そのため、公共交通の満足度の低さを計画に記載するのは慎重にした方がよい。

【委員】

土地利用構想図について、検討ゾーンが新たに増えたとのことだが、この図はこの審議会とは別のところで検討したものを掲載しているのか、それともこの審議会の中でこれから決めていくものなのか。

【町】

総合計画の後期基本計画案の中で、市街化調整区域の活用を検討していくという方針を入れている。それを踏まえて都市計画マスタープランの改定の中でも土地利用構想を検討している。

【委員】

都市計画マスタープランより総合計画の方が上位計画であり、総合計画に基づきマスタープランも検討していくという理解でいいか。

【町】

ご指摘の通り。

（２）長期的人口目標について

（資料４についてジャパン総研から説明）

【委員】

県が各市町の推計人口を提示しているとのことだが、なぜ住民基本台帳に基づき修正調整したのか。

【ジャパン総研】

兵庫県も国勢調査をベースとしている。ただ 2020 年以降の移動率は国勢調査のデータが無いので、そこは住民基本台帳で補足されている。考え方としては国勢調査を活用しながら、移動率等の設定に当たっては最新の値を反映するため住民基本台帳を活用している。

【委員】

合計特殊出生率 1.46 の維持と宅地開発による人口増を目指すとのことだが、第 2 期ビジョンの中では、現状維持するためには合計特殊出生率を 2.08 にする必要があると記載されていたと思う。今回 1.46 を維持するとのことだが、出生率を上げずに移動率、宅地開発などで目標人口をキープできるものなのか。

【町】

合計特殊出生率が 1.46 だと人口が減るのはご指摘の通りである。ただ、播磨町は面的にまだ開発の余地がある。そのため資料 53 ページの目標 4 で土地利用にも触れているが、それらを踏まえて今回の数値をご提案した。

【委員】

合計特殊出生率は国全体では 1.2 以下となっている。最新の播磨町の値はどうなっているか。

【町】

合計特殊出生率は国勢調査を基に算出している。

【会長】

最新のものも算出は可能だが、数値の正確性の課題もあり 2020 年を最新の値として採用している。ご指摘の通り、コロナ禍以降の出生率低下の加速が課題になっているが、明確な原因はまだわからない。

国も、少子化傾向を反転させるラストチャンスは 2030 年までと言っていたがその通りで、出産適齢の女性人口が、今後、減っていくことは明白である。2030 年までに出生率を 2.0 にしないと、人口減が加速する。

【副会長】

この人口ビジョンはどのような形で公表されるのか。資料 4 の数値が若干異なる。2020 年の時点で 3 種類の数値があるのでその理由を記載しなくてはいけないのでは。実数値と予測値の違いだと思う。資料を見た方が混乱しないように補足説明したほうがよい。

4 ページで人口が増えている要因について社会増と記載している。社会増のために推計が増えていることをわかりやすく明記する必要がある。

【ジャパン総研】

1 点目、資料 4 の 1 ページの 33,655 人について、2021 年の前期基本計画時点の推計値となっている。2020 年の国勢調査の結果が出る前の数値である。実績値としては 33,604 人が正しい。

【副会長】

10 月 1 日時点の実績値と記載されている。異なる理由を説明するより統一したほうが、資料の信ぴょう性があがると考える。

【ジャパン総研】

資料を精査し修正する。社会増についても追記をさせていただく。2025 年の国勢調査結果が出ないと、増加が継続しているのかはわからない。住民基本台帳をみると 30-40 代が転入すると想定しているが、再度確認する。

【委員】

出生率を上げようとするのではなく、いいまちづくりをしようとしたら結果として出生率が上がったというまちが理想。高齢者の立場からすれば一番問題なのは交通や移動である。いいまちづくりができれば必然的に人が集まってくるということを目指していただけるとよい。100 年先 200 年先を考えてまちづくりを進める必要がある。ワークショップでいろいろと意見をいただいたのはすごく良い機会だったと思っている。もっと人を集めて意見を聞くといいと思う。高齢者も含めてもっと協力していけるような工夫も今後のまちづくりに必要と考える。

【委員】

宅地開発で人口を増やしていくという話だったと思う。町域が限られている中で、私が住んでいる地域も宅地開発が進んでよくなったと感じている。若い世代にとっては引っ越しして家を買うとお金が多くかかる。なので、空き家を活用することで移住者のコストも抑えられるし、元々住んでいた人や高齢者と移住者との交流も進んでいくのではないだろうか。

【委員】

息子は一度転出して再び播磨町へ戻ってきている。戻った理由としては友人がいることと住みやすいこと。現在は家を買って住んでいるが、そのように、「戻ってきたい」と思えるようなまちづくりをすることが大事ではないか。自分の居場所として播磨町を捉えられる。心の港のような存在。温かい人間関係の中で子どもたちが育っていくとよい。

【委員】

地区で見守り活動をしているが、昔と変わったのは共働き世帯が増加したこと。両親は仕事があるから、子どもを急いで学校に送り出している。また、子育て世代と意見交換会を開いてもなかなか集まらない。子どもが「ここで育ってよかった」と思えることが大事。私の子どもも播磨町で育ったが、地域みんなで子どもを育てていく風土があったが今はそれがなくなっているように感じる。保護者の考え方等の変化もあると思うが、子どもを地域で育てることが大事ではないか。

【委員】

私は生まれも育ちも播磨町。私が生まれたときは村だった。今は当時より人口が4 倍くらいになっている。数値目標も大事だが、他の方も言ったように「本当に住みたいまちづくり」

を進めていくことが重要と考える。

私はシルバー人材センターで仕事をしているが、60 歳から加入できるが今は新規加入者のうちほとんどが 70 代である。定年延長の影響もあると思うが、70 代位になっても活躍できるまちがよいと思う。

高齢者の運転問題が顕在化している中で、公共交通がやはり課題に感じる。

また、私の住んでいる地域は昔より子どもが増えているが、コミュニティは希薄になっているのではないかと感じる。

子どもが地域の大人に叱ってもらえるような関係はなくなっていると感じるので、コミュニティを大事にしながら住みよい地域づくりを進めてもらいたい。

【佐伯まちづくりアドバイザー】

人口ビジョンの話が非常に興味深かった。佐用町にもアドバイザーとして通っているが、比較すると播磨町の特徴がわかりやすい。佐用町では去年生まれた子どもは 32 人だった。小学校によっては新 1 年生が 1 人しかいないところもある。そのような中で病院や学校含め公共施設をどう維持するかが課題となっている。そう思うと播磨町はまだ恵まれている。佐用町では一番小さな自治会は 2 世帯 3 人。播磨町のコミュニティの課題としては、つながりにくさがある。夫婦共働き前提の住宅購入ローンで、コミュニティに入りにくくなっているように感じる。子育て世代のワークショップでは、病院や遊び場等の情報を知りたがっている人が非常に多くいた。それらの情報は昔は自然とつながりがあり共有されていた。今後はそのつながりをどうつくっていくかが課題に感じる。

（３）パブリックコメントの実施について

（町から説明）

【町】

会長、副会長、委員の皆様、貴重なご意見をありがとうございました。次回の審議会については、11 月 14 日 14 時から予定しているのでよろしくお願いいたします。

３．閉会